月刊

子どもの発達・教育ジャーナル

VOL.2
7月号

「勉強が苦手」というのは、本人もつらい思いをしています。
「勉強をやらせる」よりもまず、「子どもの状況を理解してやる」
ことが、その悩みの解決策になるはずです。

来年1月まで毎月読み物としてお届けします。
バックナンバーは毎月ブログに掲載いたしています。
ぜひ、もれなくチェックください！
http://supports.mo-blog.jp/blog/
VOL.1 「やる気」とは何か？

今月のテーマ

考え方にも個性がある!?

SupportS

発行：個別指導・学習塾　サポーツ京田辺
新田辺駅東側サンフレッシュ2階　0774-65-1316

速報！
サポーツ主催の公開セミナー開催決定！
申込など詳細は来月号にて。

子どもの発達・教育セミナー

保護者・教育関係者対象

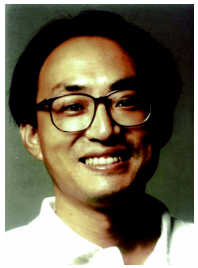
主催：　個別指導学習塾　サポーツ京田辺
後援（予定）：　京田辺市教育委員会

2014/10/19（日）

会場：京田辺商工会館CIKビル　キララホール
定員：140名（原則事前申込）

参加費：無料（京都府商工会連合会の補助金事業として実施します）

「勉強が嫌い」「やる気がない」言われても、それは、「気持ちがない」のではなく、実は、「やる気があるとみなされる行動ができない」という、決して"本人の気持ち次第"ではないことの方が多いのです。
それを理解してあげるためには、指導する側の大人が、子どもの状態を理解してあげることが求められます。そのための最先端知識を、専門家を招いて学ぶセミナーを開催いたします。



「サル学者からみたコミュニケーション論」
京都大学霊長類研究所教授 正高信男氏

脳科学から見た"やる気"のお話
～「がんばれ」と「がんばる」の差～
育脳ｲﾝｽﾄﾗｸﾀｰ中島みちる氏

「ビジョントレーニングによる学習支援」
米国オプトメトリスト
視機能トレーニングセンターjoyvision代表
北出勝也氏

顔の形がひとりひとり違うように、頭の中の”認知”もひとりひとり個性があるのです。

心理学において、理解の仕方（＝認知）
についての理論があります。

知能のPASS理論とは・・・
知能のPASS理論は、神経心理学者Luriaによる脳の高次認知機能に関する知見をもとにDasと NaglieriらがPASSと呼ばれる認知的枠組みから知能を再解釈したものです。これらの認知処理過程は相互に関係しあうとともに、過去の経験や知識とも密接に関連しているとされています。

4つの認知領域（PASS）
P (Planning) プランニング 提示された情報に対して、効果的な解決方法を決定したり、選択したりする認知プロセス
A (Attention) 注意 提示された情報に対して、不要なものには注意を向けず、必要なものに注意を向ける認知プロセス
S (Simultaneous) 同時処理 提示された複数の情報をまとまりとして統合する認知活動
S (Successive) 継次処理 提示された複数の情報を系列順序として統合する認知活動

つまり、２つの認知タイプの組み合わせが”個性”なのです。

※決して「あなたは〇〇タイプ」と決めるものではあなく、誰しも2つの認知処理と使っています。
ここでは、どちらの認知処理を優先しているかというバランスやクセを「タイプ」として表現しています。

＜継次処理優位タイプ＞

ひとつひとつ部分の認識を積み上げて、全体を理解するタイプです。
よく言えば、順序だてて考えていくのですが、いわゆる「木を見て森を見ず」となってしまう側面もあります。
お勉強は出来ても、「空気が読めない」と言われてしまう、いわゆる「理系の学者肌」「頭の硬い公務員」などと言われてしまうのは、まさにこのタイプです。

＜同時処理優位タイプ＞

継次処理が「木を見て森を見ず」とするなら、同時処理は、パッと全体を見渡して「森」と理解はするのですが、一本一本の木の違いは気にしません。
ということは、「だいたい」はすんなりわかるけれど、細かく説明をされると、むしろ混乱したりもしがちです。
おしゃべりはとっても”賢い”のに、お勉強ができない。
なんて人は、まさにこのタイプです。

例えば、タイプの違いはこんな感じ…

	継次処理が優位なタイプ	同時処理が優位なタイプ
部屋の片付け	とにかく順番にきっちり並べる。	使う用途や場面でまとめておく。
計算するとき	基本に沿って途中式を書いて間違わないようひたすら計算する。「工夫して計算する」よりも、愚直に計算した方がやりやすい。	直感的に計算する。一気に解決する方法を探す。 ややもすると、とんちんかんな、勝手な方法を使って間違う。
理解しやすいのは…	最初から順番に丁寧に説明してもらう。 例外が無い様に。細かい違いを知りたい	「要するに・・・」と感覚的に。 目的がわかれば、細かい説明は不要。
ノートのまとめ方	説明を言葉で書きとめていく	図など関係性で示していく
行動パターン	とにかくやってみる	楽な方法を考える。
困ったとき	フリーズしちゃう。	パニックになる。
集中力	興味があることには黙々とひたすら取り組む。２つのことは同時にできない。	いろいろなことに興味が向いて、集中力がない。いろんなことがに手をつけて同時進行させる。
得意科目	物理や数学、または歴史 （つまり順序だててあるものが好き）	美術なとの副教科、または国語 （ただし説明文には弱い）

＜そんな個性に応じた対応をすること＞

日常会話では、「普通そうやろ～」などと言いますが、”普通”なんて生まれ育った環境によってちがったり、そもそも、男女関係のトラブルも、男女間の考え方の違いから起きているのではないでしょうか。（男女で脳の形すら違うらしいですしね^^;）
確かに、「多くの人はそう感じる」というものはあるでしょうが、かといって「みんなとはちょっと違う」のが”悪い”という訳ではないはずですよね。

うつ病や不登校などといった状況になってしまう人の多くは、そんな”ずれ”がどんどん大きくなって、”そんな自分”に苦しんでしまっているのかもしれません。

実際に、学校などの”先生”達は”勉強ができるタイプであるはずです。
ですから、継次処理能力に優れている人が多いはずです。
そうすると、ちょっと継次処理能力が弱いタイプの困るところをわかってあげることができず、一生懸命「最初から順番に丁寧に！」教えようとします。そうすると、継次処理能力が弱いタイプには、「わけのわからないこと」をどんどん押し付けられている状態になり、どんどんパニックになり、「補習すればするほどできなくなる」なんて、先生からみれば「考えられない」状態になり、生徒にとってもは当然やる気になくなるでしょう。

お母さんと息子の食い違いも、同様に言えます。
女性は、やはり感情優勢の同時処理が優勢になりがちですし、男性は部分的な能力に強みを発揮する継次処理が優勢になりがちです。
ですから、お母さんが愛情や期待があるからこその言葉でも、男の子にとっては言葉通りに理解しようとしてしまうので、言いたい”感情”は伝わらず、意味がわからない支離滅裂な言葉に聞こえてしまうため、「うっさいなー！」と反抗したり、逆に納得でいないまま自分を殺してしまって、黙りこくってしまうのです。

学習指導の場面においても、一方的な講義では、どれだけ一般的にわかりやすく説明したとしても、それでも”理解しにくい”というタイプが居るという前提に基づいて、個性に応じた指導をすることが、個別指導に求めらているものとサポーツでは考え、日夜、すべての個性に応じた千差万別な理想的な指導の実現に努めております。

サポーツ京田辺では、臨床心理士も在籍。
専門的な検査なども実施可能です。
まずは、お気軽にお問合せください。

あなたの学習をサポートします。
Supports
発達支援から受験指導まで
「勉強を教える」のではなく、”勉強の仕方”を教えます。
個別指導学習塾 サポーツ京田辺
0774-65-1316
新田辺東側サンフレッシュ2階
サポーツ京田辺 検索